

令和7年度 高森町環境基本計画推進会議 会議記録

令和7年9月19日（金）午前10時00分

高森町役場3階 大会議室

出席：河合委員、筒井委員、近藤委員、中塚委員、久保田委員、前川委員、関島委員、宮下委員、大原委員、城子委員、松長委員

町出席：産業課長宮下、教育委員会事務局こども未来係前島、環境水道課長林、環境水道課課長補佐兼環境係長岩田、環境係松島

1. 開会

2. あいさつ（委員長）

3. 委員・事務局紹介（自己紹介）

委員長：河合 隆俊さん 副委員長：筒井 義正さん

会議について（環境係長）

4. 協議事項（進行：委員長）

（1）第3次環境基本計画について

①概要

資料「第3次高森町環境基本計画【概要版】」について説明

②町の取り組み説明

資料「高森町におけるカーボンニュートラルの現状と取り組み」について説明

「質疑」

筒井委員 太陽光発電

町では太陽光発電設備に補助金を交付しているが、他自治体の例のように、全住宅に太陽光発電設備の導入を義務付ける予定はあるか。

事務局）太陽光発電設備の設置を義務付けることは考えていない。補助制度による導入を促進していきたい。

筒井委員) 今後、大量の太陽光発電設備が廃棄されることと考えられるが、対策は考えているか。

事務局) 豊丘村に太陽光発電設備のリサイクル施設ができた。廃棄する環境は整っている。

筒井委員) 山林を切り開いて大規模に太陽光パネルを設置する事例があるが、規制は検討しているか。

事務局) 野立てによる太陽光発電設備の基準や手続きは、長野県が全県を対象にして実施している。町としても県の基準に沿った運用をしている。

関島委員) 公民館トイレの便座

公民館の改修をした際に、トイレが新しくなった。便座は温かくなるが、夏でも切ることや温度調節ができない。省エネタイプを導入してほしい。

事務局) 担当部署に伝えます。

松長委員) 大島川での小水力発電

大島川で小水力発電の可能性調査をしているが、現在の状況はどのようになっているか。赤字になってまで進める必要はないと感じる。

事務局) 令和6年度から調査をしているが、夏に夕立が続いたために砂で水量計が動いてしまい、正確な水量が測定できなかった。そのため、今年度も継続して調査をしている。調査終了後は、費用対効果も考慮しながら、導入の可否を検討していく。

筒井委員) 生ごみ処理機補助

生ごみ処理機の補助は、ごみの減量や快適な生活をするのに良いと思う。継続してほしい。

事務局) 今年度、生ごみを収集する実証実験をします。生活スタイルに合う方法を選んで、生ごみ処理ができるようにしていきたい。

③令和6年度 of 取組の振返りと評価

松長委員) D・E 評価の項目

D 評価・E 評価項目の施策や普及啓発策は廃止を検討しても良いのではないかと。限られた職員ですべてに注力するのは無理がある。方向性を見直し、優先度の高い事業に職員の力を注いでいくべき。

事務局) 計画に記載されている項目を同時期に全て実施することは難しいが、優先度や費用対効果を考慮して、可能なものから実施していきたい。

松長委員) 2 ページ: 事業者が再生可能エネルギーを利用するための情報提供等を進めます。→町が提供する必要性はない、廃止して良い。

事務局) 産業課だけではなく、環境水道課からも補助制度の周知をしている。現在は二酸化炭素の見える化・削減支援事業による支援に力を入れている。

松長委員) 3 ページ: 区と連携して里山整備事業を積極的に行います。→区は対応できない。一部では河川清掃の廃止も検討されている。見直すべき。

事務局) 区主体の協議会による里山整備を計画したが、多くが私有林であるため進まなかった。獣害対策として緩衝帯整備を進めているが、区の対応は難しいため、その他の方法を検討していく。

松長委員) 5 ページ: 公共工事では環境への影響を及ぼさない多自然工法や伝統的工法等を採用することを検討します。公共施設の駐車場や道路等では透水性舗装の活用を進めます。→実施状況にあるとおり難しい。見直しを検討。

事務局) 優先順位・費用対効果を考慮すると、現状での取り組みは困難だが、必要な項目なので、少しずつ進めていきたい。

大原委員) 生物多様性(希少種・外来種)

全国どこでも「生物多様性の保全」をうたっているが、言葉だけで行動が弱い。飯島町の希少種保全の条例化は一つのあり方(資料あり)。当町では令和元年度に『高森町の動植物』を刊行し希少種、外来種のリストを掲載した。町として何を保全するのか、場所、方法について、明確な保全策を立てる必要がある。希少種は、例えば魚類であればスナヤツメ(環境省 R D : V U)。

外来種として、アレチウリ、ニセアカシアの対策はどうようにしていくか。最近分布拡大しているメリケンカルカヤへの対応は。町はどのようなスタンスで取り組んでいくのか、具体的な方策が求められる。

事務局) 魚類の変化(モニタリング)は大原委員に依頼し、昨年度から吉田大井で町民参加型調査を実施。種類と出現数、経年変化を記録する。

いきもの調べは年 2 回に増やした。種の構成がどのように変化したか、数が増えた種、減った種を把握していく。外来種はオオキンケイギク、アレチウリが拡大しているのが課題。広報誌等を用いて対策を呼び掛けている。駆除活動に対する物品支給補助を検討したが、予算の確保ができずに断念した。今後の方策は引き続き考えていく。

大原委員) 対策対象は、オオキンケイギクとアレチウリということだが、ニセアカシア・メリケンカルカヤはどうするか。

事務局) ニセアカシアは既に、町内へ一般的に分布しているため、広報はしていない。

大原委員) 魚類では、ブラックバス、ブルーギルについて同じことがいえる。昨年、中学校の活動で新井ため池の外来種を駆除した。大事な取り組みだ。

事務局) ブラックバス、ブルーギルの拡大は人為的によるところが多く対応が難しい面がある。町内のため池への放流は禁止としている。中学生が新井ため池を干したら外来種しかいなかった。中学生の活動を通じて町民に知らせていきたい。

関島委員) バイオマスエネルギー

バイオマスエネルギーへの転換が、日本は国外に比べ進んでいない。日本は木材や竹に特化しているが、世界ではソルゴ(コーリヤン)が注目され、ベトナムやオーストラリアでは実用化している。ソルゴは

世界の五大穀物のひとつで、食料として有用だが、茎はエネルギー源、繊維原料として多用途に使える。これを耕作放棄地の活用に導入したらどうか。信州大学等でも研究が行われている。産官学連携で取り組んではどうか。

事務局）遊休荒廃地の活用は課題となっている。提案について農業委員会でも参考としたい。

関島委員）生物多様性

昨今、生態系の変化が目で分かる。虫が減った。

事務局）少子高齢化が進行し、農地や山林の手入れが行き届いていない事例がある。夏が非常に暑いことが影響しているかもしれない。高森いきもの調べを継続して、魚や昆虫の数を調査していきたい。

大原委員）環境教育

未来を担う子どもたちに、ごみ、環境問題について学んでもらいたい。地区のごみ収集に、子どもと一緒に来て分別に取り組む姿があった。もっと子どもが参加するといい。灯ろう流しの翌日にごみ拾いをしていたが、子どもの姿は無かった。学校、教育委員会には、身の回りにあるごみの実態や処理を知り、体験する機会を作ってもらいたい。そうすれば、地についた環境教育になると思う。

事務局）子どもへの環境教育は重要と考えている。現在、ごみ処理施設の見学、学習会が行われている。また、地域活動として、小中学校を通じてごみゼロ運動への参加依頼をしている。中学 2 年生、小学校 6 年生の未来議会のテーマでごみを少なくしようという意見は多く出ている。そうした課題に、自分たちが主体となって取り組むように促している。昨年の新井ため池の外来種駆除、ごみ拾い活動もその一つ。

5. その他

6. 閉会